

令和5年度

町づくり住民大会

主催:平取町自治振興会

後援:平取町 平取町教育委員会 平取町社会福祉協議会

ドキュメンタリー映画

「ぼけますから、 よろしくお願いします。」

上映会・監督講演会

入場無料
送迎バス
運行あり

監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー:大島新 濱潤 共同プロデューサー:前田亜紀 堀 治樹 山口浩史
編集:目見田 健 実景撮影:南 幸男 音響効果:金田智子 ライン編集:池田 聡 整音:富永憲一
配給宣伝協力:ホレホレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給:ネツゲン フジテレビ 関西テレビ
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com

令和5年 **11**月**30**日(木) **平取町中央公民館**

上映 17:30~ 講演 19:25~ (平取町本町88番地1)

無料送迎バスの申込みはこちら↓へ ※申込締切11月13日(月)

平取町自治振興会事務局 01457-2-2222
(平取町役場まちづくり課内)



カマを向けず 初めに気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。



**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナードーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。

令和5年11月30日(木) 上映 17:30~ 講演 19:25~
平取町中央公民館(平取町本町88番地1)

問合せ 平取町自治振興会事務局 01457-2-2222